体験博物館
千葉県立房総のむら館報

「房総のむら」は、参加体験型の博物館です。原始・古代から近・現代までの衣・食・住・技の移り変わりを、当時の環境の中で、直接体験することができます。

開館時間　9：00～16：30
休館日　月曜日（休日の場合は開館し、翌日休館）
年末年始（2020年12月26日～2021年1月1日）
臨時休館日　2021年1月5日・2月9日
入場料　一般300(240)円　高大150(120)円
※中学生以下と65歳以上無料。
※障害者手帳をお持ちの方と介護者1名無料。
( )内は20名以上の団体料金

瓦版
大木戸

Kawaraban OKIDO
Vol.64
2020年（令和2年）3月31日

編集・発行
千葉県立房総のむら指定管理者
公益財団法人千葉県教育振興財団房総のむら
〒270-1506　千葉県印旛郡栄町龍角寺1028
TEL.0476-95-3333
http://www2.chiba-muse.or.jp/MURA/

令和二年度トピックス展

「房総の牧から酪農へ」

会場：風土記の丘資料館第三展示室
会期：令和二年四月二十五日（土）～五月三十一日（日）

江戸時代、房総地方に幕府が経営する牧があったことをご存じでしょうか。牧とは馬などの繁殖のため、放牧を行う場所のことです。幕府が軍馬育成のために管理していた牧は全国で四つありましたが、そのうちの三つがこの房総にありました。下総台地の西側には「小金牧（こがねまき）」、東側には「佐倉牧」、安房地域には「嶺岡牧（みねおかまき）」が広がり、いずれも広大な牧の中で馬が放牧されていたのです。

「小金牧」は現在の千葉市から流山市まで広がり、その中で高田台牧・上野牧・中野牧・下野牧・印西牧の五牧に分かれ、「佐倉牧」は現在の東金市から香取市まで広がり、その中で油田牧・矢作牧・取香牧・小間子牧・内野牧・高野牧・柳沢牧の七牧に分かれていました。「嶺岡牧」は現在の鴨川市と南房総市の山間部に広がり、柱木牧・西一牧・西二牧・東上牧・東下牧の五牧に分かれていました。この嶺岡牧では、享保十三年（1728）に徳川吉宗によってインド産の白牛（乳牛）が輸入され、「白牛酪」というバターのような乳製品も作られていました。これが日本の酪農の始まりとされ、日本酪農発祥の地として県指定史跡となっています。

これらの牧では、牧士（もくし）と呼ばれる人たちが実質的な管理を担っていました。牧士は周辺の村の有力な農民たちが任命され、牧の維持管理のために牧の巡視や馬を襲う野犬や狼の駆除、年に一回行われる「野馬捕り」の指揮といった様々な仕事を行っていました。

明治時代に入ると、牧は一部を除き廃止されていくこととなります。佐倉牧の大部分と小金牧は、開墾地として開拓が進められ、入植された順番で地名がつけられていきました。

一方で、佐倉牧の一部（取香牧）では明治八年（1875）に羊毛生産のための牧羊場と牛馬の飼育のための取香種畜場が設立され、その後、下総種畜場、宮内省御料牧場などと改称し、昭和に入ってからサラブレッドの繁殖も行うようになりました。

嶺岡牧は明治二年（1869）に官営の牧場となったのち、明治十一年（1878）に民間に払い下げられました。都市部で乳製品の需要が高まると、明治時代以降の嶺岡周辺には、練乳工場が設立されるようになります。今も知られる大手乳製品メーカーにはこうした練乳工場にルーツをもつ企業もあり、安房地域は近代において乳業の発展を支えた重要な地域であったといえるでしょう。

「馬の放牧（宮内省下総牧場）」
（当館蔵）

本展覧会では、形を変えながらも近代まで残る嶺岡牧を中心に、佐倉牧と対比させながら、江戸時代以降にどのように牧が変遷していったのかを、牧士関係資料などとともに紹介します。また、会期中には安房地域で食べられていた「牛乳豆腐」を作る実演も行いますので、ぜひご見学ください。

（農家グループ　長谷川）

●牛乳豆腐作りの実演
五月十日（日）午前十時～正午十二時
午後一時～午後三時

令和元年度企画展「龍角寺古墳群とその時代」を終えて

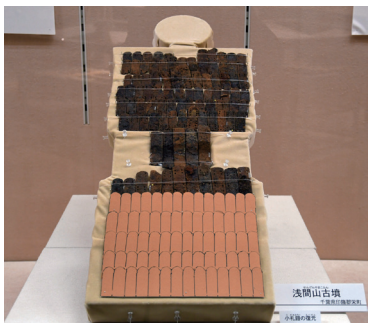
展示解説会で
熱心に観覧する来館者

今年度の企画展では、龍角寺古墳群にある、日本の方墳として最大級の「岩屋古墳」や古刹（こせつ）「龍角寺」が建立されて、当地が隆盛を極めた飛鳥時代前期の様子を展示しました。特に、都があった大和・飛鳥と当地の関係や、飛鳥文化が関東地方に伝わった歴史を考古資料によってたどりました。この内容を広く一般に理解してもらい、普段あまり触れる機会のない考古学・歴史学・仏教美術の研究成果に、より深く関心を寄せてもらうために、専門家を招いた講演会や座談会、職員による展示解説会を行いました。

企画展会場には、一般の方々を中心に、博物館館関係者や古墳の専門家などの来館者が県内外から訪れました。特に、今回の展示品の中心となった、毛彫（けぼり）模様をもつ馬具が多く出土している群馬県・茨城県など、北関東から予想外に多くの方が来てくれました。また、3D画像に音声による解説を加えた浅間山古墳の映像や、バラバラになった甲（よろい）の小札（こざね）を組み立てた展示なども好評でした。

一方、パネルの解説に多くを盛り込んだため文字が小さくなったことや、子供同伴の家族連れが楽しめるような工夫がもう少し必要であったことなどが反省点としてあげられます。歴史や考古学に関心の高い人と、子供たちの関心を両立させるのは難題です。

（風土記の丘グループ　白井）



小札（こざね）の甲（よろい）

浅間山古墳から出土した
飛鳥時代の金工品

組紐

色とりどりの美しい組紐

日本の組紐は、飛鳥時代から奈良時代にかけて、中国や朝鮮から伝えられ、その技法をもとにして、日本独特の組紐が生み出されていったと言われています。

現在、房総のむらでは、組紐レベル一の「組紐ストラップ」、組紐レベル二の「組紐〈めがね紐〉」、組紐レベル三の「組紐〈キーホルダー〉」、組紐レベル四の「組紐講習会」、組紐レベル五の「組紐〈帯締め〉」、達人講座の「組紐丸台・高台コース」の六つの組紐体験を行っています。その中でも達人講座の「組紐丸台・高台コース」は、組紐レベル四までの組紐体験にご参加いただいた方を対象に実施しており、全六回で構成されるため、丸源氏組、御岳組、笹波組、唐組など、様々な組み方を学ぶことができます。

組紐の魅力の一つは、色選びや色の置き方によって、同じ組み方をしても、まったく違った印象の作品になることです。「組紐丸台・高台コース」では、糸の色選びから始まり、糸の置き方、玉つけから仕上げまで、すべての工程の体験を行います。準備から仕上げまでの一連の流れを学ぶため、すべての工程を一人でできるようになります。体験終了後には、一本の紐をブレスレットやキーホルダーに加工することも可能です。また、一本の作品を組み上げる中で、糸の置き方を変えて作成することで、色の出方を学ぶこともできます。

組紐体験で伝統を学び、世界に一つしかないオリジナルの作品を作ってみませんか。玉がぶつかり合う「コロンコロン」という心地よい音を聞きながら、リズムよく組み上げる楽しさをぜひ体験してみてください。

（商家グループ　髙橋）

組紐丸台と玉

むらの災いよけ

館内を歩いていると、ワラでできた人形や綱などを見ることができます。これらは、「辻切り」や、「綱つり」などと呼ばれ、災いや疫病がむらの中に入ってこないようにむら境の道などに飾られていました。房総のむらでは、千葉県各地で行われていた、また現在も行われている事例をもとに再現しています。今回はそのうちのいくつかをご紹介します。

下総地域では、佐倉市・印西市・市川市・八千代市の事例を再現しています。おまつり広場から下総の農家へ向かう坂の途中にある佐倉市井野の辻切りでは、ワラで蛇の形を作りむら境の木に巻き付けます。蛇の目は米・麦・栗・豆・とうもろこしなどの五穀米を和紙に包んで作り、舌には唐辛子を挿しています。

佐倉市井野の綱つり

安房地域では、南房総市・鴨川市の事例を再現しています。水車小屋の近くには、南房総市仁我浦の事例を再現しており、目には橙、牙に唐辛子、ひげにはリュウノヒゲを着けた大蛇を作り、それに草履・桟俵・たわしを吊り下げています。

和田町仁我浦の綱つり

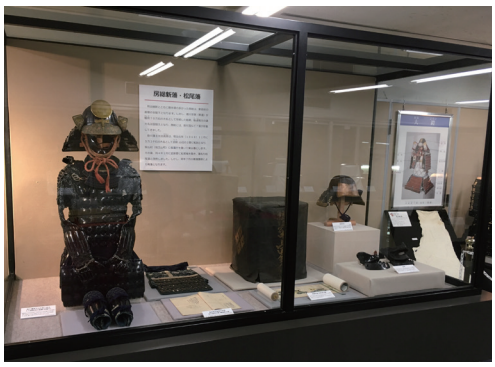
上総地域では、木更津市・袖ケ浦市・富津市の事例を再現しており、上総の農家へ向かう園路には木更津市金田の綱つりを再現しています。同地区では、むら境に綱を吊り、その縄にえび・たこ・男女の鹿島人形・たわし・木製のサイコロ・お札などを吊り下げています。

木更津市金田の綱つり

地域によって形態も様相も異なっていますが、むらに災いや疫病が入らないように、という願いは同じであり、当時の人々の結束や精神文化の一端をうかがい知ることができるのではないでしょうか。

（農家グループ　平山）

令和元年度トピックス展「刀剣と甲冑の世界」を終えて



甲冑の展示風景

近年、オンラインゲームの影響を受け、若い世代にも刀剣などの武具の魅力について興味を持つ人が増えています。そこで、「刀剣と甲冑」を併せて展示し、その魅力をわかりやすく紹介しようとしたのが本展です。刀剣は、千葉県立中央博物館（大多喜城分館）所蔵の太刀・刀・槍など十口（ふり）を、甲冑は山武市歴史民俗資料館所蔵の未公開資料の畳（たたみ）具足を展示しました。また、刀剣は鋼から焼き入れまでの製作工程を紹介し、甲冑は主要な構成要素である小札（こざね）の製作から威（おどし）（緒通し）、染めなどを甲冑師の加藤良氏に再現していただき、その工程と作品を展示しました。解説文の用語はできるだけ平易にし、要所に「なるほどパネル」という理解を助けるキャプションも置きました。新型コロナウィルスの感染拡大防止のため三月一日で会期を終えました。

関連事業として、二月九日に「甲冑着用解説会」、二月二二日に「刀剣鑑賞教室」を開催しました。

刀剣の展示風景

（広報・普及グループ　地引）

令和二年度　春のまつり

おまつり広場の鯉のぼり

ゴールデンウイークの五月三日（日・祝）から五日（火・祝）までの三日間、房総のむらでは例年の催しとなっている「春のまつり」が開催されます。

この春のまつりの顔のひとつである鯉のぼりは、おまつり広場で展示されます。新緑が目にまぶしい季節、爽やかな空気の中で、勇壮に空を泳ぐ鯉のぼりの群れは必見です。

房総のむらのまつりには、ひとつひとつ違ったテーマがあります。春のまつりのテーマは「昔の遊びと暮らし」です。こどもの日にちなんだ武者幟や鍾馗幟の展示も行います。

商家の町並みでは、様々な製作体験のほかに、堀割を船で進む「和船体験」や、職人の方が技術の粋を凝らした伝統工芸品の実演・販売も行われます。普段は総屋のショーケースの中に収められていますが、職人の方が実際に作る様子を生で見られるまたとない機会です。武家屋敷では野外でお茶と季節の和菓子を楽しむ「野点」を行います。

そのほか、毎年人気の「時代衣裳変身体験」も実施します。忍者、町娘、新撰組などお好みの衣裳に身を包み、映画やドラマのロケ地としても有名な房総のむらで、身も心も昔に浸ってみてはいかがでしょうか？プロのカメラマンに撮影してもらえる「レトロ写真館」も併せてご利用ください。

演目のほかに、この時期にしか見られない自然豊かな景色も見どころです。県内有数の古墳群や、国・県指定の文化財が見学できる風土記の丘エリアを散歩するのにちょうどいい気候です。カメラを持ってご来館いただくとより楽しめると思います。

春のまつりでは三日間、日替わりで様々な楽しい催し物を行います。伝統芸能や大道芸のほか、房総のむらのマスコットキャラクター「ぼうじろー」も遊びに来ます。

過ごしやすい陽気の中、昔の文化に親しみ、緑あふれる景観を味わっていただけると幸いです。ご家族ご友人お誘い合わせの上、是非、房総のむらにお越しください。

（広報・普及グループ　根本）

まつり開催時の注意事項

まつり当日は駐車場が大変混雑いたします。公共交通機関をご利用くださいますようお願いいたします。

また、館内はテント類の設営、ボール等の遊具の持ち込みは禁止です。ご協力の程宜しくお願い申し上げます。

令和二年度 上半期のイベント

- ●春のまつり
  5月3日（日・祝）～5日（火・祝）
- ●トピックス展【房総の牧から酪農へ】
  4月25日(土)～5月31日(日)
- ●房総座
  5月31日（日）落語家：柳家　三三（さんざ）
- ●伝統芸能入門
  6月15日（月）・8月2日（日）
- ●合同企画展示
  【「オリンピック・パラリンピック」と千葉のスポーツ史】
  7月22日(水)～9月22日(火・祝)
- ●教職員を対象とした博物館活用研修会
  7月31日（金）
- ●むらの縁日・夕涼み
  8月9日（日）・10日（月・祝）
- ●北総江戸めぐり（流山市）
  9月27日（日）

◇編集後記◇

職員が普段働いている管理棟には、館内で咲いている花の開花情報の共有を目的としたホワイトボードがあり、日々花の名前が増えています。これを見れば、来館者の方にどこで何が咲いているかをすぐにお伝え出来ます。

これを書いている今、房総のむらはコロナウイルス感染拡大防止のため、臨時休館中です。はやく安心して花を見に来られるようになるといいですね。

（広報・普及グループ　根本）